

安樂寿院あんらくじゆあんは竹田里不動院たけだのさとふどうあんの北なり。鳥羽上皇とばのじやうくわう脱離だつりの後、城南せいなんの離宮りきゆうにましく、北殿きたいでんをひらきて、当院たういんをいとなみ、

保延三年十月十九日かきぎやうはうしんわう覚行かくぎやう法親王ほうしんわうを導師だうしとして慶あゆし給ふ。「宗旨しゆじは真言まごんにして、古義こぎ新義しんぎともに修学しゆがくす」

本御塔ほんみ たふ〔北のかたの本堂ほんだうをいふ、むかしは五重ごじゆうの塔たふなり、此こゝゆゑに名なとせり〕本尊ほんそんは卍字まんじの阿弥陀あみだ仏ぶつと称なづす。「尊像そんざうの胸むね面に卍字まんじあり。此堂こゝの下したには法皇ほふわう宸筆しんぴつの法華ほふわ経きやうを収とむ、是当院こゝの寺鎮てらぢんとす」薬師堂やくしだう〔行基ぎやうき菩薩ぼさつの作り給つくふ薬師やくし如来にがひを安置あんじす〕

三体土仏さんたいのどぶつ〔釈迦しやくか弥陀みだ薬師やくしの三像さんざうなり、弘法くわうぼう大師だいしの作つくなりとぞ〕五輪塔ごりんのだふ〔無銘むめいなり、上皇じやうわう如法にがひ経きやうを此所こゝに収とらる〕碁盤ごばん梅うめ

〔上皇じやうわう城南せいなんの宮中みやちゆうにおいて碁ごを禁いじ給たまひ、碁盤ごばんを集あめて此樹下こゝに埋うめさせ給たまふ、此こゝゆゑに名なとせり。当院たういんは今いまに至いたりて碁ごを禁いじけるなり〕

冠石かぶりいし〔本御堂ほんみだう新御堂しんみだうの間まにあり、冠かぶりの形かたちに似にたるゆゑ名なとす〕

新御堂しんみだう〔南みなみの方かたの本堂ほんだうをいふ、はじめは五重ごじゆう塔たふなり〕本尊ほんそんは地藏ぢやうぢやう菩薩ぼさつにして定朝ぢやうてうの作つくなり。「美福門院びふくもんいんの御念持ごんえんぢ仏ぶつ」鳥羽院とばのいん宸影しんえい、美福門院びふくもんいん影えい〔鳥羽院とばのいんの女御によみ近衛院こんゑいんの御母ごぼなり〕八条女院はちでうによいんの影えい〔美福門院びふくもんいんの御子ごこなり。此三影こゝは新御塔しんみだうの脇壇わきだんに安置あんじす〕二重塔にぢゆうのだふ〔阿弥陀あみだ仏ぶつを安置あんじす、春日かすがの作つくなり。此塔こゝは豊臣とよとみ秀頼ひでより公こうの御建立ごけんたうありしなり〕鎮守ちんじゆ〔荒神あらしがみを祭まつる〕